



広報

# なまじん

1990年

4月

No. 173

村章

毎月1日発行



女の子の成長と  
幸せを願い

「ひなまつり」

健やかな成長と幸せを願う女の子の祭り「ひなまつり」が三月六日、村立仲尾次保育所で行われた。子どもたちは内裏雛、三人官女、五人囃子などと名城敏子主任保育母から雛人形やひなまつりの説明の後、「明かりをつけましょ ぼんぼりに お花をあげましょ 桃の花 五人囃子の笛太鼓……」と歌を歌ったり遊戯をして楽しいひとときを過ごした。

ひなまつりは、本来三月三日に行われる中国の行事で、日本に移入された行事。沖縄では「サングワチサンニチ」(旧暦)には浜下りの行事が行われていたが、最近はその行事が定着化する傾向にあり、ひなまつりは村立保育所や幼稚園でも毎年行われている。

今帰仁村の人口  
平成2年2月28日現在

男  
4,830  
(-1)

女  
4,880  
(0)

世帯数  
3,029  
(-1)

村の人口 9,710  
(-1)

# うるおいとやすらぎのある村をめざして

## 新年度の総予算は約46億2千万円(前年度比10.5%増)

＜村営プール、村営住宅、今帰仁城跡公園を建設整備＞

### 産業・教育・福祉の振興を柱に

平成二年第一回今帰仁村議会定例会が三月十二日に開会され、三月二十九日までの日程で審議が進められています。今議会に提案された議案は、平成二年度の一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、水道事業特別会計予算、老人保健特別会計予算のほか、条例等多数の案件になっています。議案の説明に先立って上間博安村長は「村民との対話による開かれた民主的行政をめざし、産業振興、福祉の充実、教育・文化の振興を図りたい」と今年度の抱負を述べました。提案された一般会計予算案は三十三億三千八百三十五万円で(前年度に比べて十・四%増)、国民健康保険特別会計予算案は五億六千七百七十九万二千円(前年度比八・二%増)、水道特別会計予算案は二億五千五百九十九万九千九百九十九円(前年度比十八・一%増)、老人保健特別会計予算案は四億六千三百二十四万九千九百九十九円(前年度比十%の増)、そして総予算額は四十六億二千七百五十六万九千九百九十九円となっています。今月号の広報では村長の提案事項の説明と一般会計予算の概要についてお知らせします。



▲定例議会で提案事項の説明をする上間村長

### ＜村長提案事項説明概要＞

#### 1 村政に対する基本理念と将来の展望

(1) はじめに  
平成二年今帰仁村議会第一回定例会を召集するにあたり、平成二年度の一般会計予算をはじめ各特別会計予算、条例案等を提案し、議会の適切なご審議をお願い申し上げます。

#### (2) 基本理念

村政の基本は平和を基調に現行の地方自治制度を有効に活用しつつ、村民主体の立場から自治体と与えられた権能を充分に発揮し、村民との対話による開かれた民主的行政をめざすこととなります。

#### (3) 古宇利架橋の建設実現に向けて

本村唯一の離島である古宇利島の離島苦を一日も早く解消す

るための古宇利島への架橋建設は、島の住民はもとより、全村の長年の願望であり、また村政にとりましても最も大きな行政課題の一つであります。これまで議会をはじめ、行政の立場からもあらゆる機会を捉え、関係機関に要請を行っていたところでありました。しかしながら、未だ確たる目途もない実状にあります。古宇利架橋の建設は莫大な費用を要すると言われ、村といたしましても、この大きな課題に立ち向かっていくため、どこからどのように挺子を入れれば実現に近づけるか検討をいたしました。その結果、一つの方法として架橋の予備調査と島の振興計画を策定し、資料を整えて国や県に対し要請活動を展開していくねらいで昨年は議会においてお願いし、調査費を認めていただいたのであります。ところが諸条件が整わず不本意ながら不執行になったことは、議会並びに



▲平成2年第一回定例議会の様子

村民に対し深くお詫び申し上げる次第であります。調査は一年遅れる結果となりましたが、平成二年度は、これまでの遅れを取り戻し、諸調査を早期に実施し資料を策定する計画であります。そして、その資料に基づいて国、県に対し強力に要請を行

い一日も早い実現を目指す考えであります。

#### (4) 自然保護と開発推進について

わが今帰仁村は古くから純農村として栄え、緑豊かな自然環境に恵まれ、歴史と文化の香り高い村として内外から高く評価されているところであります。村の海と山は「祖先から受け継ぎ、後世に伝えていかなければならない貴重な財産である」との認識に立って、今後の開発行為については、慎重を期していかなければならないと考えております。現在本村における開発行為は、自然公園法、森林法、農地法、農振法等により規制されていますが、今後は白地地域等も含めて村基本構想及び村土地利用計画の見直しを行い、開発との整合性をもとより、個別法の適切な運用を図り、環境アセスを義務付けする等に対処していく必要がありま

現在本村には多くの企業者からリゾート開発の申出が相次ぎ、この傾向は今後も続くものと思われ、このような状況の中においても、これらの施設誘致を図ることに、あくまで長期的な視野に立って、社会情勢、自然環境との調和、その他諸問題等に配慮しながら対処していきたいと思

います。また、公共事業についても、生産基盤の確立、生活基盤の整備のため、どうしても必要であるか

どうかについて明確に取捨選択を行い、その施行に際しては、一般の開発行為と同様に環境アセスの実施が必要ではないか検討してまいります。開発行為は、人間が健全な生活営むためには不可欠なことではあります。無分別な開発により本村の自然環境が破壊されその結果、住民が精神的、肉体的、経済的に被害を被ることのないよう、自然環境の保全と開発、この相反する二つの問題について、その調和を図るよう、鋭意努力していきたいと思

#### (5) ふるさと創生事業について

##### ① 事業決定の過程

「住みよい村づくりのため自ら考え自ら行う地域づくり」をテーマに村民に対して平成元年六月十二日から三十日及び八月一日から三十日の日程でふるさと創生事業の説明とアイデア募集を行いました。そして、村民から応募されたアイデアをまとめた総括集を作成し、事業の内容の状況、種類、分類別事業

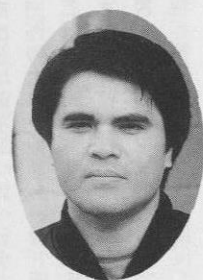
##### ② 決定事業の内容

- イ 地域活性化事業  
住民ニーズの多様化により、それぞれの集落(十九字)の要望が多岐にわたっている。各集落の住民が地域活性化のため自主的、主体的に取り組んでいる事業を、積極的に支援するため「今帰仁村地域活性化事業実施要綱」を策定し、助成金を支出する。
- ロ 日本一フルーツ生産団地を作る事業



# トバ湖への旅

## 島袋 正



トバ湖はインドネシアのスマトラ島北部にある巨大なカルデラ湖である。水域面積は琵琶湖の約二倍。水深は六百メートルとも九百メートルとも言われ、現地のトバ・バタック族が神とあがめてきた湖である。二月の初旬、その湖を訪ねる機会を得た。

桜満開の沖縄から雪の東京、成田、そして赤道を越え、熱帯のインドネシアの首都ジャカルタへ。着ていたジャンパーを片手に飛行場に下りると熱気がむつとくる。

インドネシアは一万三千以上の島からなる多民族国家で、その総面積は日本の約五・五倍。主な島の名を上げると、北にかつてボルネオと呼ばれていたカリマンタン島。東にニューギニア島。南に首都ジャカルタのあるジャワ島や独自の宗教、芸術音楽で世界的に有名なバリ島、コモドオオトカゲが住むコモド島などが連なり、西に目指すスマトラ島がある。

ジャカルタで国内線に乗り換

えて北スマトラの州都メダンに着いたのは夜の十一時過ぎだった。空港でタクシーを拾い、近くのホテルで一泊。翌朝トバ湖畔にある街パラパットに出発する。案内してくれるのはSさんという日系二世の方で、本業はメダンで診療所を開いているお医者さんである。予定していたガイドが最近カラオケバーを開き、忙しいので代役を引き受けたという。父親は軍医としてスマトラに従軍していたが、敗戦後も日本へは帰らず、現地で医者しながら中国人の女性と結婚し、Sさんをもうけたとのこと。

人なつっこいSさんの話を聞きながら車に乗り込み、市内に出て間もなく、ドライバーの運転のすさまじさにびびる。わずか二、三メートルの車間距離で、六十キロ以上平気で出す。四方八方からクラクションが鳴り響く中をオートバイに人力車風のサイドカーを付けたタクシー(?)やら自転車やらが走り回り、交差点を一時停止もしない

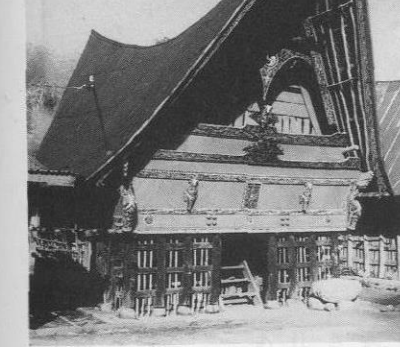
で右折し、突っ込んでくる。日本なら百メートルも行かないうちに五、六人は死んでるんじゃないか、と思っているうちに、車は郊外に出た。両側に水田や椰子、ゴムの大農場が続く一本道を文字通りすつとばす。車線もない道で、対向車が迫っているのに、クラクションをやたらめつたら鳴らしながらバッシングを繰り返す。こするようにしてすれ違った車を見送り、友人と顔を見合わせ、うーむ、とうなる。時々カーブにトラックが横転していて、乗客がどうなっただかは知らないが、荷台に幌を張って生活している人がいる。貧しさが見たらしいのか、旺盛な生活力とみたらいいのか、戸惑い、驚く。

パラパットに着いたのは夕暮れ前で、軽く下見し、汗だらだらしながらコーレーグスの利いた焼き飯を食い、ホテルに戻ってノートを整理すると泥のように眠った。

翌日、朝から岸で湖や植物の写真を撮影。夜は山の頂上付

近の森に入る。同行していたカメラマンが月の光を使って大きな棕櫚を長時間露光で撮影している間に夜の森を歩いた。赤道近くとはいえ、海拔九百メートルの地点にあるトバ湖周辺は夜は涼しくらいで、六十メートルはゆうにある松の巨木が真直に空に伸びている。棕櫚や羊歯など熱帯の植物が茂り、雲が切れ、青い月の光が差し込むとそれらの植物が幻想的に浮かび上がる。樹間に湖面のきらめきが見える。頭上で大きく木の軋む音がするので見あげると風に揺れる梢が、弧を描き、ぶつかりあっている。ゆつくりとしたその動きは遠い別の世界の出来事のように見える。息をひそめて夜の森にひしめく音に耳を澄ませ、土や草のにおいをかぎ、苔むした松の幹に触れる。一時間ほど森を歩いた後カメラマンと落ちあい、撮影

に付き合ってから森を出た。車に戻ると、中で待っていたSさんが笑いながら言う。「いやー、皆さん勇氣ありますね。このあたりの森にはコアラが出



バタック族の民家

ますから地元の人でも夜はなかなか入りませんよ。私、皆さんがなかなか出てこないから咬まれたかと思ひ、心配しましたよ」再び友人と顔を見合わせ、うーむ、とうなった。

翌朝、いよいよ湖の中央にあるサモシル島に渡る。バタック族発祥の地といわれ、沖繩本島に匹敵する大きさを持つ島だ。霧につつまれた台地状の山並みが目の前に広がり、一方の端は船からは見えない。

様を見せている。床は一メートル位の高床で、床下に囲いがされていて、豚や山羊、鶏が飼えるようになっていて。家の中で、大小便をすると床下に落ちて、豚の餌になるという。豚は黒豚で、放し飼いなので村の中を車で通ると子豚が前を逃げ回っていたりする。ホテルでチェックインを済ませ、すぐに車をチャーターし、島を回った。

バタック族にはかつて食人の習慣があり、聖なる湖であるトバ湖を見たよそ者は殺して食べていた。アンバリータ村にある石造りの裁判所と処刑場の跡には、断頭台のすぐ横に石のテーブルと椅子があり、殺したその場で会食したのだという。無論

### アンバリータの村



アンバリータではアブマ・ヌルさんという七十五才になるおじいさんから話をうかがった。バタック族は大半が敬虔なプロテスタントである。ヌルさんもそうだ。しかし、彼の祖父の時代にはまだ木や石にも神様がいると信じ拝んでいた、という。家の屋根について訊くと、一つの家に親族が数家族住むのよう、子が父の上にならないうようにという意味を込め、前の方が低くなっているとのこと。屋根の正面が三角形になっているのは常に正しいことをするという意味だという。そう言った後、ヌルさんは、昔は喧嘩なん



トバ湖で食器を洗う子供

かなかったのに、今の人は心が悪い。昔の人は心が良かった、と嘆いた。

午後から運転手の案内でトウクトウク近くの岸辺の飲み屋に行った。椰子の木に張った巴厘のネットの下を黒豚やあひる、鶏、犬が走り回っている。押し寄せる波に腰までつかり、少年が食器を洗っている。網を積んだサバニそっくりの船が岸に置かれ、陽のきらめきの下で青い水面に走る白い波を見ているととても湖には見えない。

呼ばれて店に入ると椰子酒が用意されていた。白濁したそれほどきつくはない酒だが、独特のにおいがあり、ちよつと飲めない。酒のつまみは犬の肉であ

る。犬は体が温まるので、椰子酒で冷やすのだという。一皿頼むと、一番おいしいところだといって、頭の煮込みを持ってきた。下顎はないが、上は歯もすっかり付いている。手で肉をむしり取って食べていると、向かいに座って笑いながら見ていた運転手が、ナイフを取り出し、頭蓋骨の割れ目に差し込んで貝のようにきれいに二つに割ってくれる。皺の寄った灰白色の脳味噌がむき出しになる。勧められるままにつまんで口にすると柔らかくこつりした舌触りで意外とおいしい。友人が気持ち悪がって一口で止めてしまったので、残りを運転手と二人で食べた。ガイドのSさんが珍しがって喜んでいて、外に出ると子供達が水浴びをして遊んでいた。

一人の男がこういう話を聞かせてくれた。「はるかな昔、幼くして孤児となった王子が漁をして暮らしていた。ある日、彼は川で白く細長い魚を捕らえる。魚は言った。どうか私を殺さないで下さい。王子は家に魚を持ち帰り、六枚の量を敷いて、その上に魚を載せた。すると魚は美しい女に変わった。女は男に妻になること

# 歯 磨き指導で大きな成果

## 兼次小が研究発表 県学校保健会から表彰



発表する金城教諭

「生涯を通してたくましく生きぬく子どもの育成」をテーマに県教育委員会と県学校保健会主催による「第二十六回県学校保健研究大会」が二月二十三日県医療福祉センターで各校の養護教諭や学校医、関係者など約三百人が参加して開かれた。席上、兼次小学校が平成元年度の学校保健優良校として県学校保健会（比嘉国郎会長）から表彰された。表彰は、同校が「自らすすんで歯を大切にすること子どもを育てる指導」と題し、研究を進め、地域ぐるみの活動で大きな成果を収めたことが認められたもの。

大会で、同校研究主任の金城小夜子教諭が二ヶ年にわたって研究、実践してきたことについてスライドを使って発表した。同校では、児童生徒に基本的

生活習慣を身につけさせ、学校、家庭、地域の連帯の中で教育目標の「健康でねばり強い子」を育成していくことをねらいに掲げ、県教育委員会から保健研究校の指定を受け、歯みがきの習慣を身につけさせるため、きめ細かい年間指導計画を作成。給食後に歯磨きの時間を設定、校内放送の合図とともに手鏡を見ながら丁寧に磨くことを徹底指導。歯磨きカレンダーの全員提出や虫歯予防のポスター、や標語を募集して児童や父母、地域の意識を高めよう努めた。

また全校で「虫歯をなくそう集会」を開催。夏休みには全宇の放送施設を活用して食後の歯磨きを呼び掛ける「歯磨き兼次つ子」の歌を流すなど地域とともに活動を展開したことを強調した。

▼表彰状を手にする与那嶺校長と金城、謝花教諭



践に移し、手鏡などを見ながら丁寧に歯磨きするようになった。②虫歯の早期治療や歯並びの矯正をさせる子が増えてきた。その結果歯に対する感心の高まりとともに、明るくあいさつする子、動作をきびきびする子など基本的な生活習慣の向上が図れた。また父母の面では、毎月の歯磨きカレンダーに反省を記入したり、歯や健康に対する認識が高まり、学校との連帯感が深まって、学校行事への積極的参加がみられた点を挙げ、多くの成果をあげたことを報告し、会場から大きな拍手がおくられた。

これらの研究内容と成果について十一月に行われる全国研究大会でも県代表として発表する。

# ふれあい給食 サービス始まる お年寄りら大喜び



▲「おいしい食事をありがとう」と仲宗根の平田ナベお婆あ

村社会福祉協議会（松田幸福会長）の「ふれあい給食サービス事業」が三月八日から始まった。

同事業は友愛訪問活動の一環として行われるもので、独り暮らしのお年寄りや日中一人になって食事に不自由しがちなお年寄りに栄養バランスのとれた食事をしてもらおうとともに、ややもすると孤独になりがちなお年寄りの話し相手になったり、安否の確認をしていくことが目的。当面、月二回（第二・第四木曜日）に二十三人のお年寄りを対象に実施する。

調理は、特別養護老人ホーム乙羽園（高良文雄園長）との間で契約され、八日に同園で開始式が開かれた。式には同園の職員、民生委員、社協職員、ボランティアら約三十人が出席した。説明を受けて、早速民生委員やボランティアによって地域の「お年寄り温かい食事」が届けられた。サービス料理を口にしたお年寄り達は「おいしい食事がありがとう。長生きはするものです」と感謝と喜びの表情をみせていた。

なお村社協では、ふれあい給食サービスの運搬ボランティアを募集しています。ご協力をお願いいたします。

電話 五六一四七四二

# 見事なハーモニーで 聴衆を魅了

## 天底小金管バンド部が演奏会

天底小学校（山内晴子校長）の金管バンド部（部員三十二人）の第二回定期演奏会が三月三日村コミュニティセンターホールで開かれ、児童らは、クラシック、民謡、映画音楽など幅広いジャンルの曲を披露した。

天底小の金管バンドは昭和五十九年の百周年と海邦国体を契機に結成され、昨年五月の第四回海洋博マーチングフェスティバルで優秀賞を獲得。そして、八月の国頭地区管弦打楽器ソロデュエットコンテストで部員の中から新人賞1、銀賞1、銅賞2、奨励賞などを受賞。十二月の国頭地区アンサンブルコンテストでは



天底小学校 第2回定期演奏会

▲すばらしい技能で各種コンテストで賞を得た天底小の金管バンド演奏

金賞2、奨励賞2を受賞。めざましい活躍をしている。

演奏会は四部編成で、オープニングは金管バンド部員全員による「歌えバンバン」。第二部はアンサンブル、第三部は今帰仁中学校吹奏楽部の友情演奏。第四部は「ひやみかち節」

「大きな古時計」などが演奏され、息の合ったハーモニーに会場から大きな拍手がおくられた。

# おじいちゃん おばあちゃん おめでどう

## 乙羽園で合同生年祝い

特別養護老人ホーム乙羽園（高良文雄園長）の合同生年祝いがこのほど同園で開かれ、八十五歳を迎えた四人と七十三歳一人の入園者が関係者らから温かい祝福を受けた。

祝賀会では、それぞれの関係自治体の方や家族、園から一人ひとりに記念品や花束が贈られた。村からは村長代理として伊集一隆助役が出席してお年寄りを激励した。

余興では、家族や園の職員らが次々と心温まる芸を披露して園のお年寄りから喜ばれた。

今回の該当者は、金城盛清さん（八十五歳・今泊出身）、古堅ナベさん（八十五歳・越地出身）、与那嶺ゴゼさん（八十五歳・諸志出身）と名護市出身の渡具知ウトさん（八十五歳）、盛房子さん（七十三歳）の五人。



# でっかいパラミツ実る

## 天底区長の西平守福さん宅

「今年から生り始めてこんなに大きく」と天底区長の西平守福さん（六十五歳、天底一〇二番地）が自慢げに紹介してくれたのはパラミツの実。インドや熱帯アジアが原産地。高さ約四メートルの木に三個のグロテスクで巨大な実がぶら下がっている。

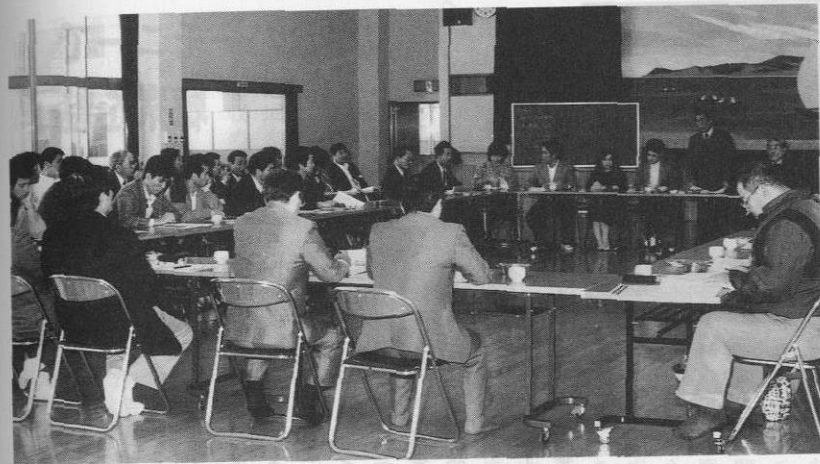
この木は九年ほど前に名護のビール祭りで購入し定植したもので、最も大きい実は長さ約五センチメートル、重さ約十五キロほどもある。さほどの手入れもしてないのに大きな実をつけたことに家族はびっくり。

パラミツには甘味の強い系統と淡白で種子を蒸して食用とする系統があるが、まだどの系統か分からない。

# 先進地の活動状況を学ぶ

## 家庭・地域教育部の五十人 児童生徒の学力向上を図るために

村学力向上対策先進地視察団が三月八日マイクロバス二台で与那城村平安座自治会(区)を訪問。同区が子供達の学習意欲を高め、学力向上を図るため、地域ぐるみの活動をどのように進め、大きな成果を収めてきたかということについて懇談をしながら学習した。視察をしたのは村学力向上対策委員会の家庭教育部の約五十人。



▲平安座自治会館で熱心に学習する家庭、地域部会の皆さん

## 平安座区の実態

平安座区は三月一日現在、人口が千八百三十六人。世帯数・五百六十二の一区一校の島である。平安座区も本村同様に戦前は教育熱が高く、すぐれた人材を数多く輩出しているところが近年、教育熱に一時的陰りが見られ、授業について行けない子供、読み、書き、計算力が劣るために、やる気に欠ける傾向の児童、生徒が

増えている実態があったという。そのことを認識して、地域ぐるみの取組を通して家庭や地域の学習環境を整え、学習意欲を高める事により、「知・徳・体」の調和のとれた人間性を豊かなくましい平安座の子を育てようとするきめ細かな実践活動を続け大きな成果をあげている地域。

## 平安座区の活動体制

同区の活動体制を紹介すると、平安座区学力向上推進委員会を設置(構成団体・区の審議委員会、老人クラブ代表、婦人会代表、青年会代表、学校職員、PTA役員等)し、その中に、1 推進委員会、2 家庭教育委員会、3 広報委員会、4 健全育成委員会の四つの専門委員会を置いて

- 1 推進委員会 (地域ぐるみ活動の展開)
  - (1) 研究推進全搬にわたる連絡調整
  - (2) 総会の企画運営
  - (3) 講演会の開催
  - (4) 研究計画の作成・集録
- 2 家庭教育委員会 (家庭学習の習慣を定着させるには家庭はどう変わればよいか)
  - (1) 家庭学習の定着化
  - (2) 基本的学習習慣の育成と推進
  - (3) ジュニアリーダーの養成(学習会指導者)
  - (4) 中学生夕読みへの参加(放送の世話)
  - (5) 家庭教育事例発表会
- 3 広報委員会 (地域の教育力を高めるための広報活動をどのようにすればよいか)
  - (1) 各委員会の研究活動の広報
  - (2) 実態調査の広報
  - (3) 地域の意識の高揚と啓蒙
- 4 健全育成委員会 (子供会活動を活発に健全育成を図るためにどう取り組むか)
  - (1) 教育隣組の活動推進
  - (2) 子供会活動の推進
  - (3) 校区内の巡視計画・実施
  - (4) 環境浄化活動の推進
  - (5) 自転車の安全指導と少年自
- 5 夏休みに、中学生、高校生、学対家庭委員、学習塾教師が指導者になって学習会を開いているなどがあげられる。
  - このように綿密な計画立案の上、家庭、地域、学校が一体化して取り組んで、すばらしい成果を収めている地域であり、今回の懇談会は大きな収穫を得たものと思われる。本村でもこれらのことを参考にして平安座区に負けない取り組みが展開されることを期待したいところ。

## 注目すべき点

- ① 夕読み指導係の指導で全児童が当番制で自治会館(公民館)に設置された施設を利用して毎日欠かさず教科書の夕読みをさせ、学習意欲の喚起をしている。
- ② 学力向上の具体策について各学期毎に班別懇談会を実施して父母だけでなく、全区民を網羅して理解を深めながら密な活動をしている。
- ③ 区で活動や事例発表会を実施している。
- ④ 地域の各種団体が企画する行事に子供達も参加させ、ふれあいの中から活動の活性化を図っている。
- ⑤ 夏休みに、中学生、高校生、学対家庭委員、学習塾教師が指導者になって学習会を開いているなどがあげられる。

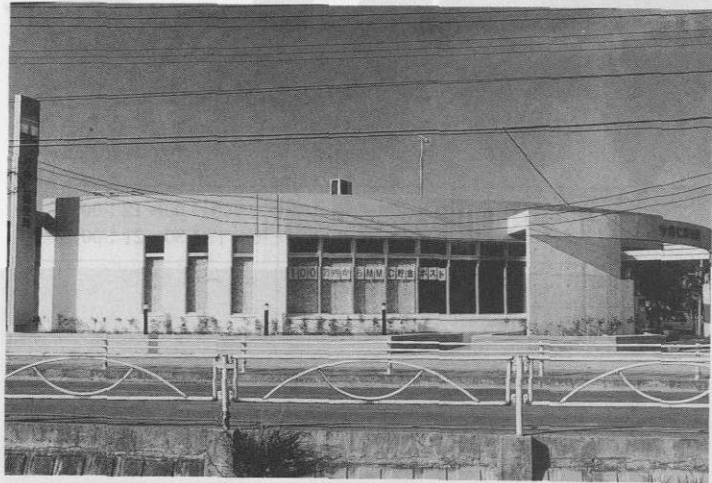
# 今帰仁郵便局が

## 新築移転



## 役場西側にモダンな姿で

今帰仁郵便局(諸喜田峯夫局長)が新築移転し、二月二十六日から新しい局舎での業務を開始した。新局舎(住所・仲宗根九六の六)は役場西側の商工会館隣り鉄筋コンクリート平屋建てで、二百六十平方メートルの広さ。旧局舎は狭く駐車場もなく不便だったが新局舎は広々としていて明るく、モダンな建物。車四台が駐車できるようにしている。諸喜田局長は「広いロビーを利用して各種の展示会もしていきたい。」と嬉しそうに語る。



## ▲広く、明るく、入りやすくなった郵便局

移転に先だち二十一日午後五時から新築祝賀会を開催。関係者や多数の村民が出席する中、諸喜田局長と中野禮一沖繩郵政管理事務所長が「新築移転を契機に住民サービスの向上につとめます。なお一層のご愛顧を」とあいさつ。上間博安村長も祝辞を述べた。

# 社会教育の充実発展を！ 振興大会に 約150人が参加 外間守善教授が講演

▼外間教授の講演にメモを取ったりしながら熱心に聞き入る参加者



築こう 自ら学び 創造する 地域社会を！ 大会テーマに村教育委員会主催の社会教育振興大会が二月二十四日村コミュニティセンターで開かれた。日頃、実践し、体験したことをもちよりに、みんなで考えていく場にしよと会場には約百五十人の村民が参加した。大会では社会教育の現況報告、実践発表、記念

講演が行われた。参加者全員による村歌斉唱や主催者、来賓あいさつの後、新垣侃社会教育課長は「物の豊かさや、便利さの中で大切なことを忘れようとしている。激動する社会に適切していくためには生涯学習が大切である」と社会教育の現況と重要性について報告した。続いて活発に活動している手話

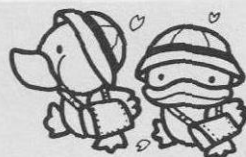
サークルあゆみの会(大城加代会長)と仲宗根向上会(金城勲会長)と英会話講座(新城春代講師)の三人がそれぞれの活動内容や問題点、今後の抱負について実践発表をした。また、外間守善、法政大学教授をお招きして「地名でさぐる今帰仁の歴史」と題した記念講演も行われた。

# ●村民カレンダー

1990年

## 4月

## 卯月



4/1日		17火	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン19:30~21:00)
2月		18水	○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00) ○日本脳炎予防接種 (湧小、中、幼9:30)
3火	○手話サークル (コミセン19:30~21:00)	19木	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00)
4水	○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00)	20金	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○日本脳炎予防接種 (今小、幼9:00)
5木		21土	○おもちゃ図書館 (コミセン9:00~12:00) ○日本脳炎予防接種 (天小、幼9:30) ○健康相談 (保健婦室9:00~11:00)
6金		22日	
7土	○おもちゃ図書館 (コミセン9:00~12:00) ○健康相談 (保健婦室9:00~11:00)	23月	○ことばの教室 (コミセン13:00~17:00)
8日		24火	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○デイケア (13:00) ○手話サークル (コミセン19:30~21:00)
9月	○ことばの教室 (コミセン13:00~17:00)	25水	○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00) ○老人大学開講式 ○リハビリ (コミセン13:30~15:30)
10火	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○1歳半健診 (コミセン13:00~14:00) ○手話サークル (コミセン19:30~21:00)	26木	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○日本脳炎予防接種 (古小、中、幼10:30)
11水	○リハビリ (コミセン13:30~15:30) ○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00)	27金	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00)
12木	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○DPT (コミセン13:00~14:00)	28土	○おもちゃ図書館 (コミセン9:00~12:00) ○日本脳炎予防接種 (兼小、幼9:00 兼中11:00) ○健康相談 (保健婦室9:00~11:00)
13金	○ことばの教室 (コミセン9:00~12:00) ○日本脳炎予防接種 (今中9:30)	29日	
14土	○おもちゃ図書館 (コミセン9:00~12:00) ○健康相談 (保健婦室9:00~11:00)	30月	
15日		5/1火	
16月	○ことばの教室 (コミセン13:00~17:00) ○3歳児健診 (コミセン13:00~14:00)	2水	○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00)



世界保健デー (4月7日)



都市緑化推進運動 (4月1日~6月30日)



啓明の日 (4月18日)



婦人通関 (4月10日~16日)

■毎月の取材で多くの村民にお会いします。すると「毎月のこと大変ですね、日曜日でも仕事ですか」などといったわりや励ましの言葉を掛けてもらうこともしばしばです。むしろ心よく取材にに応じてもらったときは感謝の気持ちでいっぱいなのに温かいお言葉に頑張らなくっちゃという気にさせられるものです。広報にはこれからもたくさんの方に登場していただこうと思っていましが今月号でお別れです。というのも今回の人事異動で担当がかわるからです。三ヶ年の間、誤字脱字等で迷惑をかけたことをお詫びし、色々と教えていただいたことに感謝します。■後任へも記事の提供等ご協力をお寄せ下さるようお願いいたします。

編集後記